

にんにん堂

豊艷な代表



代表
準備出来ました

いつも
ありがとう

「激務に
追われる中で
わたくしに
とってこれは
一時の癒し」



ビ●ケ
流石ね…

ル●ミーネ
代表…



「素敵…
食べ頃ね…」

さあ

あなた達
いらっしやい…

グイーン

「ふふ、わたくしが
愛するに相應しい
可愛くて美しい子達…」

「安心なさい
わたくしに
任せれば
いいの…♡」



♡+♡

「毛がこんなになに…
腋毛…代表の
腋毛濃すぎだ…」



「ル●ミーネ代表の
腋…うわあ…
すごい匂いだ…」



「舐めて…」



「吸って…」

「たーんと味わいなさい♥
わたくしのフェロモンで
アナタ達のオスを呼び
起こすのよ…♥」

「もっと
舐めたい
です…」

「代表の腋…
ドキドキ
します…」



「ツンとくる匂い…」

「臭いの…
嗅いじゃうよ…」

「素敵よ…ぷりぷりの
愛おいしいおち●ぽ♥」

(青臭い新鮮な
匂い…堪らない♥
わたくしの深い
愛情を注いであげ
るわ…♥)

んっく

シクシク

シクシク

んっく

ぶっちゅ

シクシク

シクシク

シクシク

(あら、それはここに
突っ込むモノじゃな
いわよ♥)

(もう…
若いわね…♥)

シクシク

シクシク

シクシク

シクシク





「前途ある若者に
大人の魅力を
教えるのって♥」



「ゾクゾク
するわ…」

アッアッ



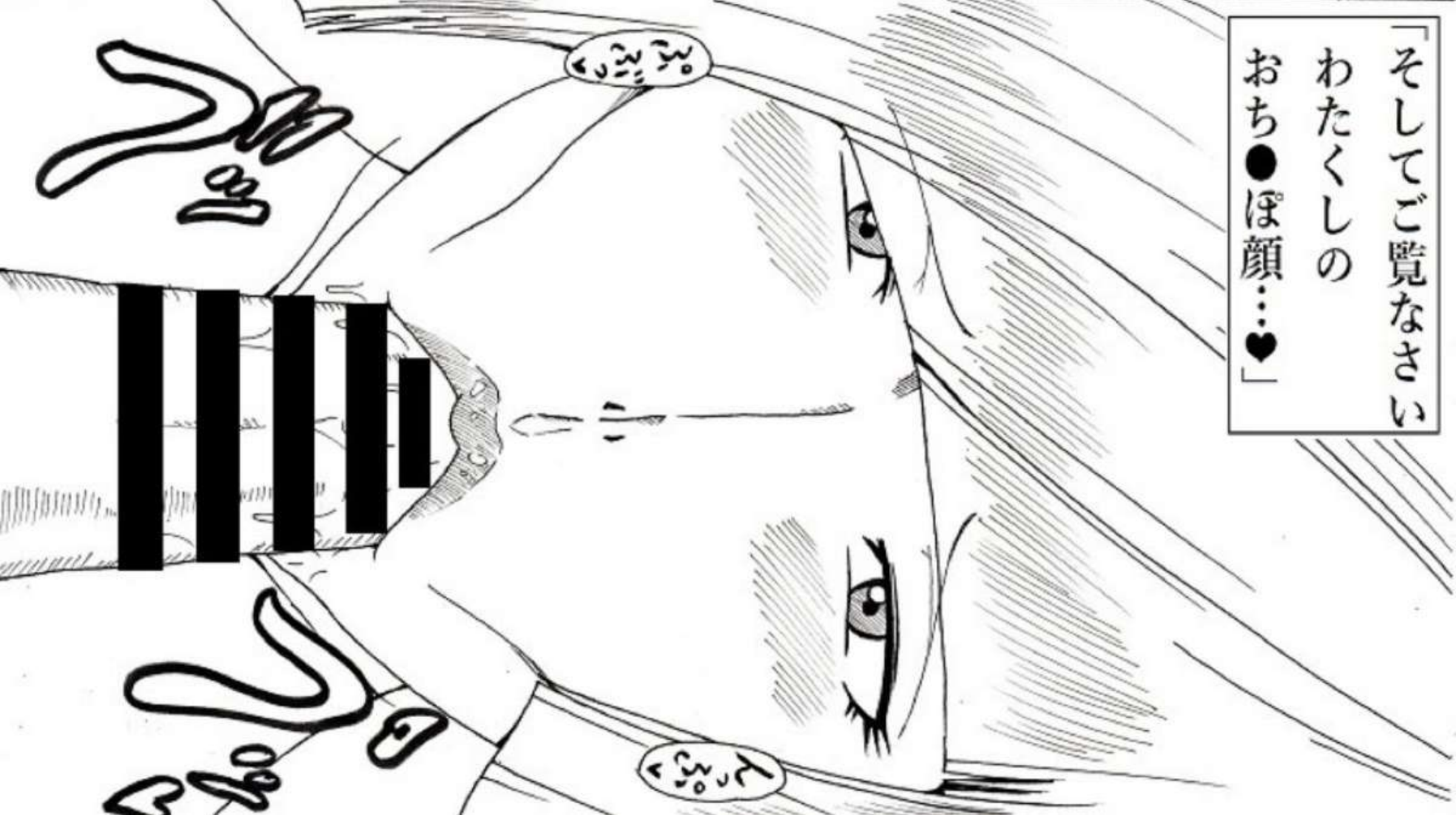
「キミは少し
乱暴よ…♥」

ずぶっ



「腰使いが
様になって
きたわね♥」

アッアッ



「そしてご覧なさい
わたくしの
おち●ぼ顔…♥」

アッアッ

「いいわ…
すっかりオスの顔に
なったじゃない…♡」

「見せてご覧なさい
アナタ達の
深い深い愛を…♡」



「あん♥
欲望丸出しね♥」

「いいわよオスの
剥き出しの本能…」



「わたくしが全て
受け止めて
あげる…♥」

ああん
ジュッジュッ

ジュッジュッ
グッグッ
グッグッ

ジュッジュッ

ジュッジュッ

ジュッジュッ

ジュッジュッ

あーん

あーん

ジュッジュッ

あん♡ あん♡ あん♡

あん♡



あん♡

あん♡



あん♡

あん♡



「そこは流石に
恥ずかしいわね…♡」

あん♡

「もう…あんまり
臭いじゃいや♡」

あん♡

あん♡

あん♡



「ふふ、夢中で
聞こえてないのね♡」

あん♡



あん♡

あん♡

あん♡



「代表…」

「そう…」

「もう我慢の
限界よね♥」

「40を越えた
おばさんで良ければ…」

「みんなの筆下ろし
してあ・げ・る…」



はあ…

はあ…

ムム

ムム

はあ♥

クマム

川

「前途ある若者がわたくしの
散々使い古した経産婦

おま●こで…童貞卒業…●

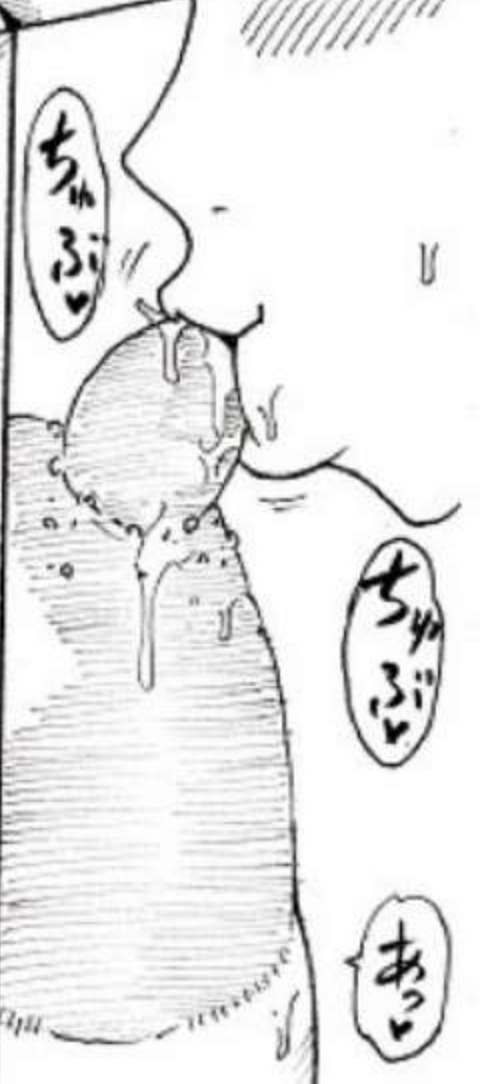
「ふりふりで…」

キツキツの同世代

ま●こじゃなくて

40過ぎのお母さん

ま●こで初体験ね●



(なんて

勢いななのツ♥)

バグッ
カグッ

バグッ

あぁっ

バグッ

オシ

(おばさん相手に
容赦ないわ…ツ♥)

「アナタ…
素晴らしい
腰つきよツ♥
将来が
楽しみだわ♥」

いいわっ

いっ

ドクッ
ドクッ
ドクッ

ドクッ
ドクッ

ドクッ
ドクッ
ドクッ

んはっ

んっ

おっ
いっ

(…一カ月
振りね♥)

アッ♥

アッ♥

アッ♥

アッ♥



「緊張
してるの？」

「アナタ…
可愛いわ♡」

「あぁ…！」

「あ！」

「フブツ♡」

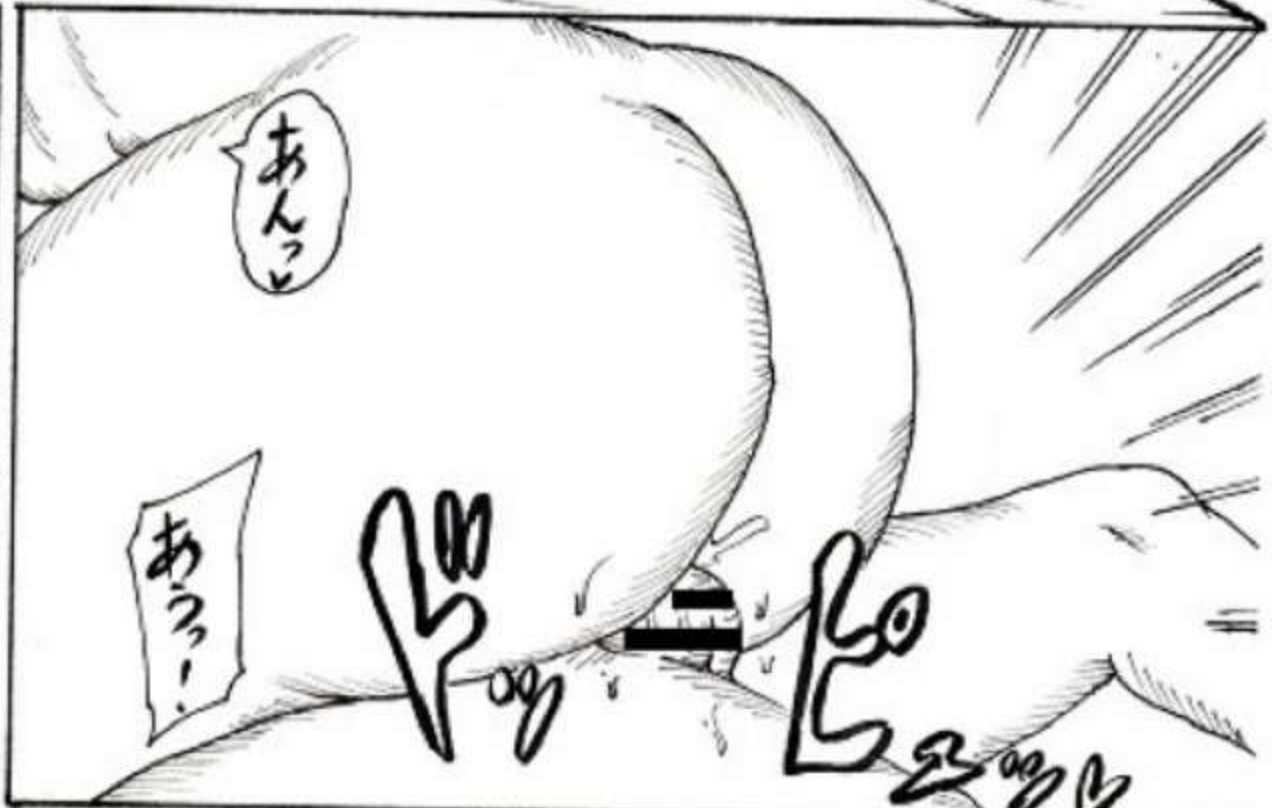


「ふふふ…
イジワルしたく
なっちゃう♡」

「ハァ」

「ハッ」

「ハッ」



「あんっ」

「あっっ！」



「次は
アナタ
達よ♡」

「あらあら
ごめんなさい」

「さあ…存分に
イキなさいッ♥」

「やっぱり
二本挿しは
興奮するわ♥」





「妖精ムチモン
コスよ♥」

ムチモン

ムチモン

「さあ悶絶必死の
ドスケベバトル
始まりよ…♥」



「…お待たせ♥」

おっ♡

「ちゃんと
着替えたわね」

カツッ..

ん♡

お♡

お♡
お♡

「…いいわ♡流石
進化シヨタモンね」

「アナタのプレイには
無限の可能性を
感じるわツ♡」

バズッ

バズッ
バズッ

お♡
おほ♡

ほ♡

ビクン♡

ビクン♡

「豪快なおち●ほ
スイングツ♡
豪腕シヨタモン…
伊達じゃないわね♡」

ジュルル
ジュルル
ジュルル

「たまごシヨタモンの
孕ませ中出しイイ♡」



「まだまだいける
わよね？」

「さあ
きなさい♡」

あーっ
おんっ

ビュッ
ゴッ

ジュホッ

ぶっほ

ジュホッ

ぶっほ

ぶっほ

ジュホッ

ジュルル

んっ

ジュッ

ジュッ
ジュッ
ジュッ

ジュッ
ジュッ

「すごい
匂いだね」

「臭っ」

ジュッ
ジュッ

ジュッ
ジュッ
ジュッ

ジュッ
ジュッ

「妖精だって
オナラするわ♡」

ジュッ

ジュッ



「何てスピード
なのッ!？」

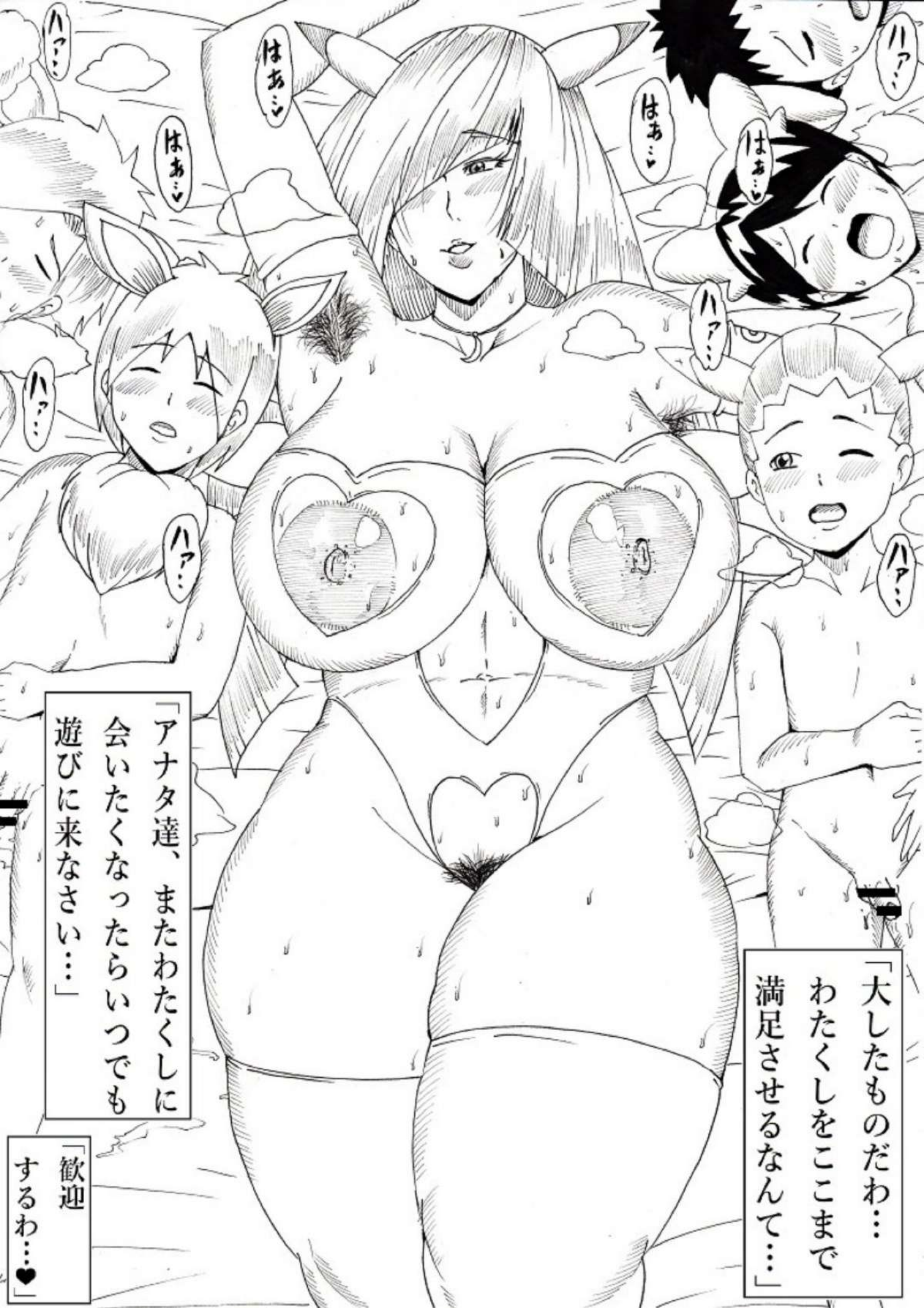
はぁん
あ
ん



「鼠と兎の
シヨタモン
ダブル高速
ピストンツ♥」

「これ最高
よおツ♥」





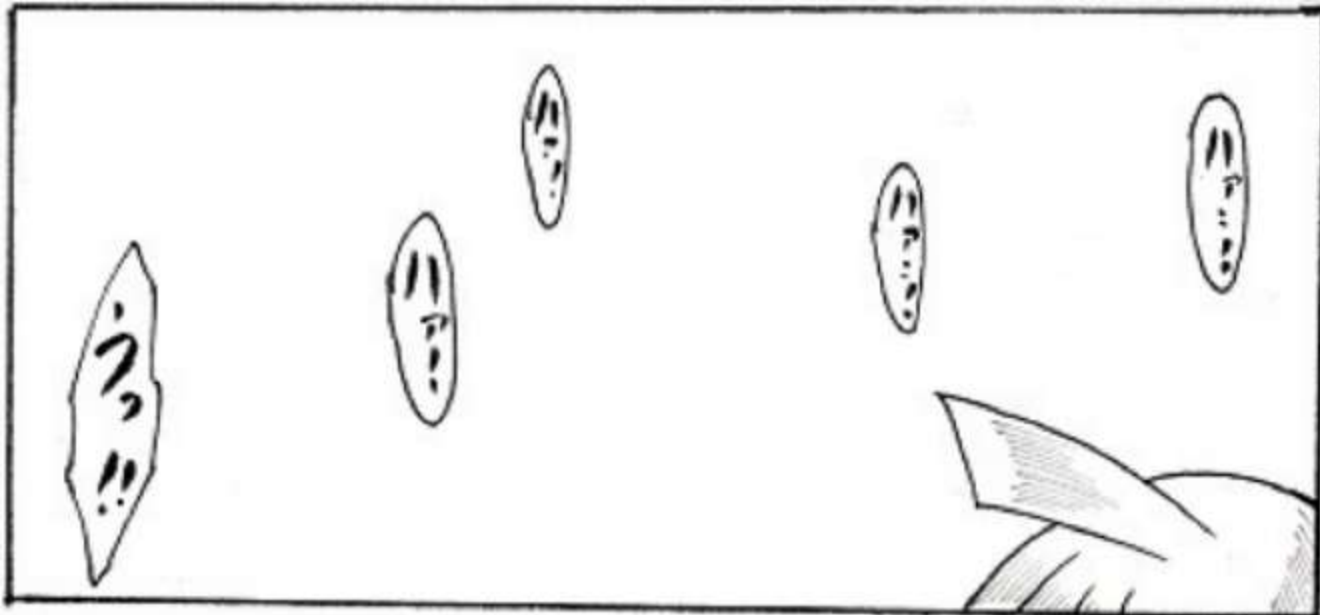
「大したものだわ：
わたくしをここまで
満足させるなんて…」

「アナタ達、またわたくしに
会いたくなったらいつでも
遊びに来なさい…」

「歓迎
するわ…♥」

ル●ミーネが
少年達と
お楽しみの頃

とある
場所にて



母さん...



To Be Continued